



三春中学校だより

第 64 号

発行日 令和 2 年 3 月 18 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【卒業式を心を込めて！ ～いつもと一緒に心を込めてお祝いの準備をしました。～】

外部作業員の佐久間さんが、作品展示用掲示板のコルクボードを張り替え、整った環境の中で卒業生を送り出そうとしている中、体育館においては、卒業式全体を統括する教務主任の門馬先生の指揮の下、3学年の先生方が卒業式前の最後のリハーサルを行っていました。いつも通り、3年間、そして、9年間がんばってきて、それぞれの小学校や地域、三春中学校を支えてきてくれた卒業生のみなさんをあふれるばかりのお祝いの気持ちで送り出してやろうと、仕上げに余念がありませんでした。在校生は臨時休業で準備に加われないため、足元の体育館フロアのシート敷きや椅子の配置は2年生が、校舎内の準備は1年生の先生方が担当し、「チーム三春中」での職員作業となりました。



校舎内に移動すると、卒業式前日の各教室には、お祝いのメッセージがそれぞれの場所に工夫され飾り立てられていました。以前ご紹介した3年2組の背高のっぼ草はたくさんの花びらを開き、その花びらに負けずに飾られた紙の花びらも3年生の卒業を心から祝福していました。



いつもならば左の生徒さんのようにたくさん子どもたちが徒歩で、車の送迎で登校してきますが、臨時休校の最中で、いつもどおり出勤しても、卒業式当日早朝の校門付近は、ひっそりとしていて、卒業式の主役の静かに登場を待っていました。

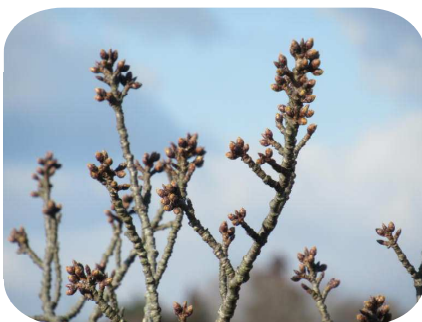
卒業生の登校時間までにはまだ間があったので、卒業式当日の校舎周りをめぐって歩いてみました。部室裏のクロカンコースからの校舎の眺め、避難広場から見た磐越自動車道上り線三春パーキング付近を走る自動車やトラック、貝山グラウンド上の桜の木のごつごつした蕾は間もなく開花の時を迎えようとしていました。



掲揚台には、礼服を身につけた2学年担当の岩瀬先生。国旗、校旗を掲揚していました。毎日生徒会役員のみなさんが掲揚し続けてくれたわが三春中学校の象徴でもある校旗が、今日は掲揚した人は違いますが、掲揚台でこの日もはためき、卒業生の登校を心待ちにしていました。

そこへ一人の女子生徒が登校、次第に卒業生とその保護者のみなさんが町駐車がいっぱいになる

ほど集まりはじめ、4名のご来賓のみなさまをお迎えして令和元年度福島県田村郡三春町立三春中学校第7回卒業証書授与式は開始されました。



右下の最後の写真は、109名の卒業生を見事に送り出した第3学年の先生方の集合写真撮影風景です。一人ひとりの『命の輝き』を求め、『共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに』子どもたちと共に過ごした日々を互いにかみしめていました。第3学年団のみなさんもおめでとうございます。



【卒業生への校長からの最後のメッセージ！ ～ありがとう。～】

三春町立三春中学校 第7回卒業証書授与式式辞

千年に余る歳月を超え、三春が育ててきた『滝桜』の子孫たちが、昇降口の前で、そして、大階段から見上げた土手の途中で間もなく開花の時を迎えようとしています。本日は、4名のご来賓のみなさまのご臨席をたまわり、卒業証書授与式を挙げていきますことに心より感謝申し上げます。

義務教育9年間を修了し、この三春中学校を卒業する109名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。晴れの門出にあたり、これまでの三春中学校での生活を振り返り、4つの贈る言葉を伝えたいと思います。第一は、『かけがえない命を大切にしてほしい』ということです。私たちの命は、35億年以上もとどまることのない、ヒトの命のつながりの上にあります。生きる喜びも、深い悲しみも、命あればこそです。命の大切さを常に心に、与えられた命を全力で守り続けていきましょう。第二は、教科教室方式で学んだ、『「自ら求めて、自ら動く」という精神を大切にしてほしい』ということです。みなさんは、インターネットやAIに囲まれた便利な社会『Society 5.0』の中で生きていきます。待っているだけでは何も解決しません。動くことで次が見えます。そんなたくましさはみなさんには期待します。第三は、『本当に大切なものは何かを考へ行動してほしい』ということです。臨時休業前の全校集会、人がいても、いなくても、社会に認められる形で、正しい判断と選択ができること、その拠り所が『忠恕』『探究』『必達』であることを伝えました。正しく現実を見つめ、『本当に大切なものは何か』という視点で問題解決にあたれば、きっと、みなさんは、社会から、かけがえない存在として認められるはず。そして、最後は、『人の心の温かさを忘れないでほしい』ということです。41名分の皆勤賞、109名分の卒業証書。一人ひとりの顔と、その名前前に込められたご家族の願いを思い浮かべ、心を込めて書きました。今、私たちに命あるのは、目に見える、目に見えないたくさんの方の『おかげさま』なのです。また、疲れた時には『SOS』をきちんと出せる人でください。「助けて。」と言えることは生きる上で大切な力です。人に宿る温かな心を信じましょう。

保護者のみなさま、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。本日で、お子様はみなさまのもとへお返しします。みんなで卒業をお祝いしたいという思いは同じですが、今日は家庭の代表という形で参加いただきました。現状を冷静に理解し、お祝いの心を大切に、代表による参加について理解をいただいたそのお姿は、本校がめざす『忠恕』『探究』『必達』そのものです。非常時にどう行動するかを身をもってお示しいただきありがとうございます。今後、正しい判断と選択で自らの人生を歩んでいけるよう温かくお見守りいただければと思います。

ご来賓のみなさま、本日はご臨席をたまわりありがとうございます。地域に見守られ、励まされ、生徒も、地域に何ができるかを考えてまいりました。今後も、地域と共にある学校としてお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

今、日本は、世界は、未知のウイルスの感染拡大に歯止めをかけられず、輝く未来図を描くことが難しそうに映ります。これだけ医学が進歩する中、自然に対してもっと謙虚であることの必要性を考えさせる出来事でもあります。しかし、私たちは人間の知恵と勇気を信じたいと思います。卒業式予行の言葉を繰り返します。「明けぬ夜はない。」「一步一步が苦しい。しかし、いつかこの一步一步が終わるときがくる。だから今この一步一步をがんばろう。」シェークスピア、そして、田部井淳子さんの言葉です。希望をもち、前を向き歩いていきましょう。

令和元年度『チーム三春中』もあとわずかです。卒業生が3年間、それぞれの『命の輝き』で三春中学校を照らし続けてくれたことに心より感謝します。そして、その足跡を大切に、人の心の温かさや強さを忘れず、人を愛し、人を許し、心身健康で、自分以外の命のために自らを分け与えることのできる生徒づくり、学校づくりを、教職員一同、『共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに』めざしてまいりますことをここに伝え申し上げます。

令和2年3月13日

福島県田村郡三春町立三春中学校長 佐藤和典